

コース構成表 ①防災基礎

No.	単元名	教育手法	単元の概要	学習目標
1	危機管理総論	座	防災・危機管理の基本的な考え方を学ぶ。	・防災・危機管理の基本的な考え方を説明できる。
2	防災行政基礎	座	防災活動全体の流れと個々の活動の基礎的な知識を学ぶ。	・防災活動全体の流れについて説明できる。
3				・防災活動の概要について説明できる。
4	災害法体系と防災計画	座	防災活動全体の流れに関連する基本的な法律や計画を学ぶ。	・防災活動に関連する法令の概要を説明できる。 ・防災計画の概要について説明できる。
5	地震・津波発生メカニズムと実態 (事例)	座	自然災害の発生メカニズムと、災害による被害を理解し、地方公共団体の対応を学ぶ。 ・地震・津波災害	・地震と津波災害のメカニズムとその被害、及び対策について説明できる。
6	風水害のメカニズムと実態 (事例)	座	・風水害	・風水害（洪水、土砂災害、高潮、竜巻）のメカニズムとその被害、及び対策について説明できる。
7	火山災害のメカニズムと実態 (事例)	座	・火山災害	・火山災害のメカニズムとその被害、及び対策について説明できる。
8	災害対応過程と態度を学ぶ	演	災害発生前後の地方公共団体の対応について具体的な事例に沿って学ぶ。	・災害発生前後に、必要な行政の対応の流れを、具体的に説明できる。
9				
10	全体討論・閉講	演	防災力アップのため、災害対応の基本について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	・研修受講の目的を再認識する。 ・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・研修を活かして次につなげることを認識する。

コース構成表 ②減災対策

参考資料5-2

No.	単元名	教育手法	単元の概要	学習目標
1	新規 減災対策総論	座	自助・共助・公助による減災、地域の災害リスクの理解、被害想定の方法、ハザードマップの活用手法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助・公助による減災対策の概要を説明できる。 ・地域の災害リスク、被害想定の方法、ハザードマップの活用手法を説明できる。
2	新規 各省庁の減災対策	座	国の各省庁が行う様々な減災対策とその最新の動向について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・国の各省庁が行う減災対策の概要について説明できる。 ・国の各省庁が行う減災対策の最新の動向について説明できる。
3	新規 ボランティア・市民団体	座	災害ボランティアとの連携、企業や市民団体の自発的な防災協力について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアとの連携について説明できる。 ・企業や市民団体の自発的な防災協力について説明できる。
4	一部新規 企業防災	座	企業が災害時に果たすべき役割を十分に認識し、企業と行政が連携した防災活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が災害時に果たすべき役割について説明できる。 ・企業と行政が連携した防災活動について説明できる。
5	新規 減災対策ワークショップ	演	地方自治体の防災行政における自助・共助・公助の実践的な推進の仕方についてのワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政における自助・共助・公助の実践的な推進の仕方について説明できる。
6	行政のBCM	座	行政におけるBCMの意味と策定のポイントについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政のBCMの意味を説明できる ・行政のBCP策定のポイントを説明できる
7	一部新規 住民啓発・防災教育 ・災害教訓の伝承	座	地方公共団体が行う防災についての住民啓発、防災教育、災害教訓の伝承について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災についての住民啓発の方法を説明できる。 ・防災教育の方法と取り組み事例を説明できる。 ・災害教訓の伝承の方法について説明できる。
8	新規 住民啓発・防災教育ワークショップ	演	地方公共団体が行う防災についての住民系やつや防災教育の実践の方法を学ぶためのワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・防災についての住民啓発の実践の方法を説明できる。 ・防災教育の実践の方法を説明できる。
9	新規 自主防災活動 ・地区防災計画	座	自主防災活動の実態とその促進策、地区防災計画の意義について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災活動の実態と促進策を説明できる。 ・地区防災計画の概要と意義を説明できる。
10	全体討論・閉講	演	減災対策について学んだことを、受講者が自らの地方自治体でどのように反映させるのかを考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講の目的を再認識する。 ・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・研修で学んだ減災対策を自らの地方自治体で反映させる認識を持つ。

コース構成表 ③ 訓練企画

No.	単元名	教育手法	単元の概要	学習目標
1	訓練企画の枠組	座	災害対応や防災に関する訓練企画の全体像と訓練手法にはどんなものがあるかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応や防災に関する訓練や演習の位置づけを説明できる。 ・災害対応や防災に関する訓練や演習の企画の考え方を説明できる。
2	新規 訓練企画手法	座	防災訓練の企画手法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応や防災に関する訓練や演習の手法を説明できる。
3	新規 訓練事例	座	国や地方公共団体が実際に実施している訓練の事例を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に行われている防災訓練の概要や事例を説明できる。
4	訓練企画運営実践Ⅰ 討議型図上演習 (エスノグラフィー演習)	演	訓練手法のうち討議型図上演習の一つであるエスノグラフィー演習を経験し、個人を対象とした訓練企画の入り口である災害対応の疑似体験演習の企画運営の考え方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・討議型図上演習（エスノグラフィー演習）の内容を説明できる。
5				<ul style="list-style-type: none"> ・討議型図上演習（エスノグラフィー演習）の企画の考え方を説明できる。 ・討議型図上演習（エスノグラフィー演習）の評価の考え方を説明できる。
6	訓練企画運営実践Ⅲ 状況付与型図上演習	演	訓練手法のうち状況付与型図上演習の一つである災害対策本部運営訓練を経験し、災害対応組織を対象とした災害発生直後の初動対応訓練の企画運営の考え方を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・状況付与型図上演習の内容を知る
7				<ul style="list-style-type: none"> ・状況付与型図上演習の企画の考え方を知る ・状況付与型図上演習の評価の考え方を知る
8	訓練の運営、 評価・改善手法	演	訓練の運営から訓練結果の評価と既往の計画等にフィードバックする方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応や防災に関する訓練や演習の評価・検証方法を説明できる。
9				<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応や防災に関する訓練や演習のフィードバックの考え方を説明できる。
10	全体討論・閉講	演	防災力アップのため、訓練企画について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講の目的を再認識する。 ・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・研修を活かして次につなげることを認識する。

コース構成表 ④警報避難

参考資料5-4

No.	単元名	教育手法	単元の概要	学習目標
1	警報避難対策の枠組	座	警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 警報等の伝達及び避難誘導の目的、実施主体と役割について説明できる。 警報等の伝達及び避難勧告等の判断・伝達の流れについて説明できる。
2	避難勧告ガイドライン	座	避難勧告ガイドラインについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 住民等の避難行動の考え方について説明できる 避難準備情報や避難勧告等の判断に必要な考え方を説明できる。 避難勧告等を住民に伝達し、周知するための伝達方法について説明できる。
3	警報等の種類と内容	座	気象庁、国交省・都道府県から発表される警報等にはどんなものがあるかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 注意報と警報、特別警報の意義付けと意味について説明できる。 警報等の入手・伝達の方法と手段について説明できる。 .
4	新規 避難場所・避難所の認定	座	住民等の避難行動の目的となる避難場所・避難所にはどんなものがあるかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所・避難所の種類と内容について説明できる。 避難場所・避難所の認定の方法について説明できる。
5	新規 避難場所・避難所の適否判断の実務	演	災害ごとに避難場所・避難所の適否判断をするうえでの行動を演習する。	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所・避難所の適否判断の基本的な考え方について説明できる。 避難場所・避難所の適否判断を適切に行うためのポイントを説明できる。
6	土砂災害における警報と避難	座	土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害における警報と避難の実務について説明できる。
7	広島の土砂災害の事例に学ぶ	演	土砂災害における警報と避難について広島の土砂災害の事例から実態を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害における警報と避難の事例を説明できる。
8	風水害における警報と避難	座	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 風水害における警報と避難の実務について説明できる。
9	新規 風水害におけるタイムライン計画	演	風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法について説明できる。
10	全体討論	演	防災力アップのため、警報避難について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

コース構成表 ⑤物資物流・広域行政

参考資料5-5

No.	単元名	教育手法	単元の概要	学習目標
1	救援物資 調達・供給の枠組	座	被災者への、救援物資の調達から輸送・保管・配布に至る全体像について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急物資の民間企業・団体からの調達の実態について説明できる。 ・緊急物資を民間企業・団体から円滑に調達するための留意点を説明できる。 ・緊急物資を民間企業・団体から円滑に調達するための備えを説明できる。
2	物資調達演習	演	災害時の救援物資の調達から輸送・保管・配布に至る一連の活動における留意点などを演習形式で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・救援物資の調達業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 ・救援物資の倉庫業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 ・救援物資の輸配送業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。
3	交通の確保	座	救援物資の輸配送等で必要となる道路、港湾、鉄道、空港などの交通確保について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通確保対策の概要について説明できる。 ・災害発生時の道路、海上、鉄道などの交通確保の実態について説明できる。 ・交通確保のための国と被災地方公共団体の役割について説明できる。
4	緊急輸送	座	救援物資の輸配送等で必要となる緊急輸送路の確保のための交通規制や緊急車両の手続きなどを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の緊急輸送路の確保の実態について説明できる。 ・緊急通行車両等の申請手続について説明できる。 ・今後の災害時に、交通確保・緊急輸送を円滑に行うための備えを説明できる。
5	救援物資調達・供給の 実務と課題	座	災害事例等から、救援物資の調達・提供業務における課題について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急物資の輸配送の実態について説明できる。 ・緊急物資の輸配送を民間企業・団体と連携して行う際の留意点を説明できる。 ・緊急物資の輸配送を円滑に行うための事前の備えを説明できる。
6	広域的な応援体制の枠組	座	大規模災害時の広域的な応援体制の全体像と国民等からの義捐物資・義援金の受入について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関の間で行われる広域的な応援受援の仕組みを説明できる。 ・自治体間の応援受援を円滑に行うための留意点を説明できる。 ・義捐物資や義援金の受け入れの留意点を説明できる。
7	国における応援体制	座	大規模広域災害時の国による広域的な応援体制について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模広域災害時の国による広域的な応援体制を説明できる。
8	自衛隊の災害派遣	座	災害事例等から、自衛隊の活動を例に、広域的な応援受援の実態と課題について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な支援を行う個人・団体の活動の実態を説明できる ・緊急物資の輸配送を民間企業・団体と連携して行う際の留意点を説明できる。 ・緊急物資の輸配送を円滑に行うための事前の備えを説明できる。
9	広域応援・受援 ワークショップ	演	大規模災害時の広域的な応援および受援活動の実施における留意点などを演習形式で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な人的・物的支援を受け入れる際の留意点を具体的に説明できる。 ・多様な機関・団体と連携して業務を実施する際の課題と留意点を説明できる。
10	全体討論	演	防災力アップのため、災害時の物資物流と広域的な応援体制について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講の目的を再認識する。 ・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・研修を活かして次につなげることを認識する。

コース構成表 ⑥避難所運営・被災者支援

参考資料5-6

No.	単元名	教育手法	単元の概要	学習目標
1	被災者支援の全体像 →被災者生活再建支援	座	被災者支援の全体像を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 被災者支援の業務の流れを説明できる 被災者支援において果たすべき機能を説明できる 被災者支援の担い手について説明できる 被災者支援の場について説明できる 生活再建支援の全体像について説明できる
2	災害救助法と生活再建支援法	座	災害救助法と生活再建支援法の位置づけ、被災者支援のための災害救助法と生活再建支援を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 法律の主旨を説明できる 対象範囲を説明できる 適用条件を説明できる 災害救助の種類と手続きの概要を説明できる 生活再建支援の種類と手続きの概要を説明できる
3	避難生活の支援	座	避難生活の支援が果たすべき機能を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 避難所／避難場所にそなえるべき機能を説明できる 衣食住に係る支援を説明できる 医職趣に係る支援を説明できる 情報提供に係る支援を説明できる 福祉避難所／避難スペースを説明できる
4	多様な主体による被災者支援 →民生支援	座	専門職能における被災者支援を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 自衛隊による被災者支援を説明できる 警察による被災者支援を説明できる 消防団、民生・児童委員による被災者支援を説明できる ボランティアによる被災者支援を説明できる 災害時要援護者支援を説明できる
5	避難所のライフサイクル	演	避難所のライフサイクルを体験する	<ul style="list-style-type: none"> 避難所・福祉避難所の指定をためす 避難所の開設をためす 避難所の空間設計をためす 避難所運営に係る支援をためす 避難所解消に係る支援をためす
6	避難所以外の避難生活 →在宅支援	座	施設避難、在宅避難を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 医療・福祉・教育施設における避難を説明できる 旅館・ホテルにおける避難を説明できる 在宅避難に必要な支援を説明できる 医療・保健・福祉資源による支援を説明できる 障がい者の避難実態を説明できる
7	仮設住宅のライフサイクル コース変更	座	仮設住宅と借り上げ仮設住宅のライフサイクル、他の仮住まい形態を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 用地確保から仮設住宅確保までを説明できる 入居受付から仮設住宅解消までを説明できる 住居確保、入居、解消までを説明できる 施設における緊急的な入所を説明できる 血縁、社会縁における仮住まいを説明できる
8	医療による被災者支援 →救護所	座	医療による被災者支援を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 被災者における医療支援の必要性を説明できる DMATによる被災者支援を説明できる 救護所における被災者支援を説明できる 避難所における被災者支援を説明できる こころのケアを説明できる
9	被災者支援の個別課題 →孤立化・遺体処理・帰宅困難・広域避難	座	被災者支援の個別課題を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 避難後の孤立解消の実際を説明できる 遺体処理の実際を説明できる 帰宅困難者対策を説明できる 広域避難の実際を説明できる 生活再建の実際を説明できる
10	全体討論	演	机上にて支援業務を計画する	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたシナリオにおける被災者の状況を理解できる 被災者のニーズを理解できる ニーズにこたえるために必要な支援業務をあげることができる 優先して取り組むべき業務を選択できる それらの過程について、議論ができる

コース構成表 ⑦復旧復興

No.	単元名	教育手法	単元の概要	学習目標
1	復旧・復興総論	座	被災者および被災地の復旧・復興プロセスの全体像と災害復興関連法制度の概要について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興対策期の概要を説明できる。 ・復旧・復興期のプロセスを説明できる。 ・復旧・復興期における地方自治体の役割を説明できる。
2	被災施設・設備の応急復旧	座	復旧・復興の前提となるライフラインや道路機能の応急復旧、及び社会基盤の復旧復興を行う上で基本的な知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や地域機能を応急復旧するための施策の概要を説明できる。 ・社会資本の災害復旧の概要を説明できる。 ・被災施設・設備や社会基盤の復興の概要について説明できる。
3	災害廃棄物処理	座	応急復旧の前提となる災害瓦礫の撤去とその処理の意義及び進め方について、事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生後の災害廃棄物処理の意義を説明できる。 ・災害発生後の災害廃棄物処理業務の概要を説明できる。 ・被災者に配慮したガレキへの対応について学ぶ
4	住まいと生活の再建	座	被災者個人の生活復興とその基盤となる被災者の住まいの再建について、事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者個人の住まい再建や災害復興公営住宅など住宅再建計画の概要について説明できる。 ・被災者個人の生活再建とその支援の概要について説明できる。 ・ライフサポートアドバイザーやコミュニティ支援の意義について説明できる。
5	経済復興支援と被災者の雇用支援	座	地域社会の活力と被災者の雇用の確保につながる経済復興について基礎的な知識を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生後における地域産業と経済の動向と課題を説明できる。 ・災害発生後における地域産業の復興支援及び被災者の雇用支援の概要を説明できる。 ・過去の災害における経済復興支援の事例を説明できる。
6	復興基本計画と復興まちづくり	座	復旧・復興を本格的に進めるための計画策定手法と復興まちづくり事例を基に実務を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・復興基本計画の策定プロセスとその意義を説明できる。 ・復興まちづくり計画策定とその進め方を説明できる。 ・過去の災害における復興計画の策定とまちづくりの事例を説明できる。
7	復旧・復興推進上の課題と事前の復興対策の意義	座	復興施策の推進にあたっての課題を理解するとともに、事前の復興対策の取り組みの意義について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の災害における復興期の課題を体系的に説明できる。 ・復旧復興のために事前に取り組むことについて説明できる。 ・復旧復興のモニタリングの重要性について説明できる。
8	復旧復興計画策定 ワークショップ	演	復興計画策定プロセスの理解と復興施策の推進のための復興本部体制のあり方について、演習形式で考える。	復興計画の作成過程の一連の流れを説明できる。また、復興計画策定および復興施策推進の体制について説明できる。
9				
10	全体討論	演	防災力アップのため、復旧復興について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講の目的を再認識する。 ・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・研修を活かして次につなげることを認識する。